

江戸歴史講座第39回 江戸時代の村と百姓の実像



「四季耕作図屏風」部分 長谷川雪旦 佐賀県立博物館

江戸時代について語られるとき、百姓が主人公になることはめったにありません。しかし、江戸時代の人口の約八割は百姓であり、彼らが深いところで社会を支え、歴史を動かしていたのです。江戸の街のにぎわいも百姓たちの生産物なしでは語ることはできません。この講座では、村に生きた百姓たちの主体的・能動的な実像についてお話しします。そして、村という共同体で支えあい、時に一揆という手段を用いて領主への抵抗も見せた彼らの強^{しびた}かな生き方に触れてみましょう。

講師

■渡辺 尚志 (わたなべ たかし)

一橋大学大学院社会学研究科教授。1957年、東京都生まれ。東京大学大学院博士課程単位取得退学。博士(文学)。国文学研究資料館助手を経て現職。専門は日本近世村落史。著書に『百姓の力』(柏書房、2008年、2015年に角川ソフィア文庫から再刊)、『百姓たちの江戸時代』(ちくまプリマー新書、2009年)『武士に「もの言う」百姓たち』(草思社、2012年)などがある。

開催概要

- 日時：2016年5月25日(水) 19:00~20:30 (18:30 開場)
- 会場：日比谷図書文化館 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：200名(事前申込順、定員に達し次第締切)
- 参加費：1,000円(千代田区民500円 ※住所が確認できるものをお持ちください。)
- 申込方法：来館(1階受付)、電話(03-3502-3340)、Eメール(college@hibiyal.jp) いずれかにて
 - ① 講座名、②お名前(ふりがな)、③電話番号をご連絡ください。